

環境建設工学科（土木コース）

教育課程及び履修方法

教育分野	1年次		2年次		3年次		4年次		計
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	
共通教育	教養総合領域	教養領域1	教養領域2	教養領域4	教養領域5	総合領域3			
			教養領域3	総合領域5					
	日本語表現法入門								
基幹領域	大学英語	英語	英語						
	第2外国語Ⅰ	第2外国語Ⅱ							
専門基礎	物理学Ⅰ	物理学Ⅱ							
	物理学実験								
	微分積分学STⅠ	微分積分学STⅡ							
環境計画学			島嶼環境計画論	土木計画数理及び演習	土木計画	道路交通計画			
				土木設計製図	環境システム	環境衛生工学			
設計工学	基礎力学	材料力学及び演習	構造力学Ⅰ及び演習	構造力学Ⅱ及び演習	鋼構造工学	橋設計論			
				土木材料	構造景観設計	設計演習Ⅰ・Ⅱ			
					計算力学				
環境防災工学		基礎流体力学	水理学Ⅰ及び演習	水理学Ⅱ及び演習	海岸工学	河川工学			
				土質力学Ⅰ及び演習	水工学実験	港湾工学			
					土質力学Ⅱ及び演習	岩盤力学			
学科共通	線形代数学A	常微分方程式A	偏微分方程式A	複素関数論					
	土木工学概論	土木基礎情報処理	測量学Ⅰ	測量学Ⅱ	土木現業実習Ⅰ・Ⅱ	土木施工	土木セミナー		
		確率及び統計	測量学実習Ⅰ	測量学実習Ⅱ		土木技術者倫理	火薬学		
		土木行政	土木情報処理			シビルエンジニアリングデザイン	卒業研究		
必修科目単位数	19	14	13.5	16	9	3	3	3	80.5
取得単位数の例	19	20	19.5	20	19	18	6	3	124.5
備考	<p>□ は必修科目、□ は選択科目。</p> <p>共通教育科目の内、総合領域と教養領域については履修方法の一例を示している。基幹領域の一部の科目は状況により他の学期に履修する可能性もある。</p>								

別表 (第4条, 第4条の2関係)

環境建設工学科
授業科目表

教育分野	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	学 授 業 内 容	必修・選択の別	
								土木コース	建築コース
工学 共通 科目	工 001	職業指導	2	2-0	4	前又は後	職業教育・産業教育の基礎	—	—
	" 004	総合演習 B	2	2-0	3・4	前又は後	自然環境と人工環境を調和し得る技術の在り方, それに関する工業教育をするための方法・技術	—	—
	" 220	情報産業論	2	2-0	2	後	産官学の講師による最先端のIT研究, e-ビジネス, 情報と感性(人間工学), IT製品開発の実例等の講義を通じて, IT技術の最新動向や製品プロセスなどを習得する。	△	△
	" 300	科学技術史	2	2-0	3・4	前又は後	工学に関わる諸々の技術の発展と社会との関係	△	△
	" 301	安全工学	2	2-0	3・4	前又は後	安全工学の定義, 災害の種類と相互関係, 産業災害の損失, 災害防止と企業計画, 労働災害, 異常診断機能, 欠陥関連樹法, 事故事例	△	△
	" 302	品質管理	2	2-0	3・4	前又は後	品質管理理論, 統計的処理技法, 信頼性管理	△	△
	" 303	工業所有権法	2	2-0	3・4	前又は後	工業所有権概説, 特許制度の起源と目的, 主要国の特許法, 発明の定義と特許条件, 出願手続, 審査手続, 特許権の性質と効力, 存続期間, 侵害対策, 特許訴訟	△	△
	" 306	経営工学概論	2	2-0	3・4	前又は後	経営工学と管理事務, 生産管理とIE技法, 工程管理と工程分析, 在庫管理と品質管理, FA化技術, システムの信頼性と性能評価	△	△
	" 310	産業社会学原論 I	2	2-0	3・4	前又は後	歴史性・社会性のある技術者を養成するため, 学内外の専門家の技術論・企業経営論を, その人生観・文明論を含めて多面的に講述し, ケース学習を通じて社会的存在としての技術者像を探究させる。	△	△
	" 311	産業社会学原論 II	2	2-0	3・4	前又は後	ITや農業および環境関連の先駆的起業家の講話を通じて, 企業の社会的役割を修得する。	△	△
	" 320	企業研修	2		3	前	情報産業論の履修者を対象に, 実際に企業で行われている実務プロジェクトに参加し, プログラミング技術などを修得するとともに, 社会人としてのマナーや責任感を学ぶ。	△	△
	" 321	企業実習	2		3	前	情報産業論, 企業研修の履修によって得られた経験をもとに, 夏期休暇中に協力企業において実際の業務に就き, 即戦力としてのスキルを身につける。	△	△
" 501	Frontiers of Engineering	2	2-0	1~4	後	英語により, 様々な工学分野の最近の研究内容等を解説し, 探究させる。	△	△	
環 境 計 画 学	環 1200	島嶼環境計画論	2	2-0	2	前	亜熱帯島嶼地域に位置する沖縄の自然の特徴と同地域における持続可能な発展のための技術や開発手法	○	△
	" 1202	土木計画数理及び演習	3	2-2	2	後	確率・統計的な方法, 回帰分析, 線形計画, ネットワーク計画, プロジェクト・スケジューリング, 費用便益	●	
	" 1204	土木設計製図	1.5	0-3	2	後	土木製図に関わる基礎的知識の習得とCADを用いた設計演習	○	
	" 1300	土木計画	2	2-0	3	前	土木史, 土木景観と都市計画及び国土計画の計画策定に関する諸論	●	
	" 1302	環境システム	2	2-0	3	前	環境問題, 環境と人間および社会, 環境システムと災害, 環境の管理・保全と創造, 環境とミティゲーション	○	△
	" 1304	道路交通計画	2	2-0	3	後	道路の幾何構造と舗装, 交通容量, 交通計画プロセス, 交通調査法, 需要予測法	○	
	" 1306	環境衛生工学	2	2-0	3	後	上水道, 下水道, 水質汚染, 大気汚染, 土壌汚染, 騒音・振動, 廃棄物, 環境影響評価, 環境浄化技術	○	△
	" 2200	建築設計製図基礎 I	2	0-4	2	前	建築設計に関わる基本演習及び設計演習(住宅コピー, 住宅など)		●
	" 2202	建築計画概論	2	2-0	2	前	建築空間の把握, 建築計画の理念, 課題, 住宅を中心とする計画論について講義する。		●
	" 2204	建築意匠	2	2-0	3	前	近代建築を中心とする建築意匠の諸相について講義する。		○
" 2206	都市計画	2	2-0	2	前	都市の実態, 都市計画の原理, 計画策定プロセス, アーバンデザイン		●	
" 2208	建築設計製図基礎 II	3	0-6	2	後	中規模建築物に関わる設計理論, 設計演習(公民館, オフィス, コミュニティー施設など)		●	

教育分野	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修・選択の別	
								土木コース	建築コース
環境計画学	環 2210	建築史概論	2	2-0	2	後	日本, 西洋建築史を中心に各地域, 時代の建築意匠, 工法の変遷, 特徴について講義する。		●
	" 2212	各種建築計画	2	2-0	2	後	オフィスビル, 集合住宅, 文化施設等の計画方法をタイプ別に講義する。		○
	" 2214	建築構法	2	2-0	2	後	要求条件を満たす構造体, 下地, 仕上げ, 設備などの材料の選択, 寸法の決定, 組合せ方などの考え方と事例		○
	" 2216	住空間計画	2	2-0	2	後	住生活・住文化・住環境と住宅計画に関する理論		●
	" 2218	建築環境工学 I	2	2-0	2	後	建築環境の概論, 建築音響, 日照と日射, 建築光環境		●
	" 2220	建築環境工学演習	1	0-2	3	後	主として室内環境の基本的な音, 熱, 光に関する計算及び設計演習		○
	" 2300	現代建築思潮	2	2-0	3	後	ポスト・モダニズム以降の国内外の多様な建築思潮について講義する		○
	" 2302	コミュニティ空間計画	2	2-0	3	前	居住地, 地域施設, 地域の生活空間の計画論		○
	" 2304	都市デザイン演習	2	1-2	3	前	都市デザイン, 地区デザイン, 景観デザインに関する計画・設計の演習を行う。		○
	" 2306	建築設備計画	2	2-0	3	前	電気設備, 給排水・衛生設備, 空気調和設備, 防災設備, 情報設備, 保全・管理の基本的な考え方と事例		●
	" 2308	建築環境工学 II	2	2-0	3	前	湿気, 伝熱, 空調熱負荷, 換気, 都市気候		●
	" 2310	建築環境工学実験	1	0-3	3	前	建築気候要素, 光環境, 屋内外の音響に関する実験		○
	" 2312	建築設計製図 I	3	0-6	3	前	建築のプログラミング及び設計演習 (集合住宅, 学校, 美術館など)		○
	" 2314	建築設計製図 II	2	0-4	3	後	大規模建築物を中心とする建築, 都市, 地域の設計演習 (劇場, 商業施設, 複合施設など)		○
" 2316	都市計画法制	2	2-0	3	後	都市計画, 地区計画, 建築誘導に関わる法律・制度手法の成立, 解釈, 運用について考究する。		○	
" 2320	建築環境設備設計	2	2-0	3	後	建物の環境設計及び設備設計に関わる理論と実践について講義する。		○	
設計工学	環 1130	基礎力学	2	2-0	1	前	力学の基礎概念となる静力学の基礎原理, 力の釣り合い, 平面内で一点に集まる力及び平行力, 及びモーメント,	●	
	" 1132	材料力学及び演習	3	2-2	1	後	トラスの部材力, はりの断面力, 影響線, はりの応力度, 断面の幾何学的性質, 及びそれらの内容に関する演習	●	
	" 1230	構造力学 I 及び演習	3	2-2	2	前	静定はりのたわみ, たわみ角の計算 (微分方程式, モーメントの定理), 長柱と短柱, 組合せ応力, 及びそれらの内容に関する演習	●	
	" 1232	構造力学 II 及び演習	3	2-2	2	後	エネルギー原理, 仮想仕事の原理, 不静定構造物の解法, 及びそれらの内容に関する演習	●	
	" 1234	土木材料	2	2-0	2	後	鋼材, 瀝青材料, フレッシュコンクリート, 硬化コンクリートの性質, 配合, 耐久性, 施工・管理	●	
	" 1330	鋼構造工学	2	2-0	3	前	鋼材材料の特性及び強度, 連結部の構造及び強度	●	
	" 1332	構造景観設計	2	2-0	3	前	構造物のデザインと景観設計	○	
	" 1334	コンクリート構造工学	2	2-0	3	前	材料とその設計用値, 鉄筋コンクリートはり・柱の設計, 各種性能照査, プレストレストコンクリート概説	●	
	" 1336	計算力学	2	2-0	3	前	数値解析の基礎, はり要素及びトラス要素を用いた有限要素法の理論および応用, 振動方程式の数値解析	○	
	" 1338	コンクリート工学実験	1.5	0-3	3	前	セメント・骨材・コンクリートの物理的, 力学的性質等の材料実験, 鉄筋コンクリートはりの曲げ試験	○	
	" 1340	橋設計論	2	2-0	3	後	荷重, 床構造, 各種橋構造形式のもつ力学的意味及びその特性	○	
	" 1342	設計演習 I	2	1-2	3	後	橋梁構造の設計製図及び模型作成	○	
	" 1344	設計演習 II	2	1-2	3	後	鉄筋コンクリートはりの設計	○	
	" 2130	建築構造力学 I	3	2-2	1	前	構造力学の基礎, 力のつりあい, 剛体の静力学, 材料力学, 断面の性質, 応力とひずみ	●	
" 2132	建築構造力学 II	3	2-2	1	後	直線部材の変形, 直角変位図, 仮想仕事の原理, 静定構造物の変形, 仮想仕事法	●		
" 2230	建築構造力学 III	3	2-2	2	前	たわみ角法, 固定法, マトリックス構造力学の基礎	○		

教育分野	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修・選択の別	
								土木コース	建築コース
設計工学	環 2234	建築材料学	2	2-0	2	前	コンクリート材料を主に、木材、石材、鋼材について講義する		●
	〃 2238	環境材料学	2	2-0	2	後	循環型社会構築に資するよう、建築材料の耐久性、リサイクルについて学び、さらに仕上材について学ぶ		●
	〃 2240	構造設計 I	2	2-0	2	後	鉄筋コンクリート構造の基本事項、はり・柱・スラブ・耐震壁などの許容応力度設計法		●
	〃 2332	耐震設計概論	2	2-0	3	後	地震荷重と耐震設計法、耐震診断、耐震補強・補修法に関する概論		○
	〃 2334	建築材料構造実験	1	0-3	3	後	細骨材、粗骨材、比重・吸水率試験、コンクリートの調合設計、スランプ試験、鋼材の引張試験、コンクリートの圧縮試験、はりの曲げせん断試験		○
環境防災工学	環 1160	基礎流体力学	2	2-0	1	後	相対性原理と運動法則の成立、流体力学と自然の中の流れ、流体力学の基礎理論、流体力学の定理、定理の応用、流体の数値計算	○	○
	〃 1260	水理学 I 及び演習	3	2-2	2	前	静水圧、相対静止流れ、連続の式、運動方程式、ベルヌーイの定理、流線、粘性流	●	
	〃 1262	水理学 II 及び演習	3	2-2	2	後	乱流、漸変流、管水路流れ、開水路流れ、等流、不等流、せき、水門	●	
	〃 1276	土質力学 I 及び演習	3	2-2	2	後	地盤の生成と調査・試験、土の基本的物理量、土の工学的分類、土中水理と浸透問題、地盤内応力とモールの応力円、土の圧密沈下特性、及びそれらの内容に関する演習	●	
	〃 1360	海岸工学	2	2-0	3	前	波の基礎理論、流速場、波のエネルギー、波の変形、波の予測、沖縄沿岸特性、サンゴ礁海岸と生態系	●	
	〃 1362	水工学実験	1.5	0-3	3	前	層流と乱流、円管内の流れの抵抗、開水路の流れ、水の波、リーフ上の波の変形	○	
	〃 1376	土質力学 II 及び演習	3	2-2	3	前	土のせん断強さ、土圧・擁壁、矢板の安定計算、基礎地盤の支持力、斜面の安定性、土の締固め、及びそれらの内容に関する演習	●	
	〃 1378	土質工学実験 A	1.5	0-3	3	前	土粒子の密度試験、粒度試験、液性・塑性限界試験、透水試験、一軸圧縮試験、三軸圧縮試験、圧密試験、一面せん断試験	○	
	〃 1364	河川工学	2	2-0	3	後	水文循環、流出解析、河床変動、治水、水質管理、水圏生態系、生物多様性	○	
	〃 1380	地盤工学	2	2-0	3	後	地盤環境、島嶼地盤の特性、土質調査法、地盤改良・補強土工法	○	
	〃 1382	岩盤力学	2	2-0	3	後	地殻の構成、初期応力、地質調査、岩石・岩盤の力学的特性、不連続性岩盤の力学、岩盤の水理特性、トンネル・地下空洞・岩盤斜面などの岩盤構造物の設計論	○	
	〃 1384	港湾工学	2	2-0	3	後	波浪の予測、波と港湾構造物、数値計算、港湾の計画、港湾と環境、港湾と地域振興、港湾と空港	○	
	〃 2260	防災工学概論	2	2-0	2	後	構造設計法、安全性と信頼性、極値統計、地震・津波、強風、積雪、火災、都市防災		●
〃 2364	建築基礎構造	2	2-0	3	後	土圧理論、山留及び地下壁に作用する土圧、直接基礎、杭基礎		○	
〃 2368	構造設計 II	2	2-0	3	前	鉄骨造の許容応力度設計法、高力ボルト接合、溶接接合、木材の性質、在来軸組構法、壁量、集成材		●	
共通	環 1190	土木工学概論	2	2-0	1	前	土木コースの教育目標及び履修計画、土木工学の主要教育分野（構造工学、地盤工学、水工水理学、土木計画学、材料工学）の概説、官公庁・建設コンサルタント・建設業での業務及び教育分野との関係	●	
	〃 1192	土木基礎情報処理	1	0-2	1	後	コンピュータの使用法、ワープロ、表計算、プレゼンテーションソフト、インターネット	●	
	〃 1194	線形代数学 A	2	2-0	1	前	ベクトル、行列と行列式、線形写像、固有値	●	
	〃 1196	常微分方程式 A	2	2-0	1	後	常微分方程式、連立微分方程式、特殊関数	●	

教育分野	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修・選択の別	
								土木コース	建築コース
共通	環 1290	偏微分方程式 A	2	2-0	2	前	偏微分方程式の分類, 偏微分方程式の解法, フーリエ変換, 偏微分方程式の数値解法	●	
	" 1292	測 量 学 I	2	2-0	2	前	距離・平板・トラバース・水準・スタジア測量, 三角測量, 測定値の誤差	●	
	" 1293	測量学実習 I	1.5	0-3	2	前	平板・トラバース・水準測量	●	
	" 1295	複素関数論	2	2-0	2	後	複素関数論, ベクトル解析	○	
	" 1296	土木情報処理	2	2-0	2	後	土木関連問題の数値計算処理	●	
	" 1298	測 量 学 II	2	2-0	2	後	路線測量, 河川測量, 地形測量, 写真測量, その他の応用測量	○	
	" 1299	測量学実習 II	1.5	0-3	2	後	三角・基準点測量	○	
	" 1390	土木現業実習 I	2		3	前	官公庁, 建設コンサルタント, 建設業等の学外現場での実習 (10日以上)	○	
	" 1391	土木現業実習 II	1		3	前	官公庁, 建設コンサルタント, 建設業等の学外現場での実習 (5日以上10日未満)	○	
	" 1394	土木技術者倫理	2	2-0	3	後	技術者倫理総論, 土木技術者に求められる倫理観, 事例分析	●	
	" 1395	シビルエンジニアリングデザイン	1	0-2	3	後	社会の要請を勘案しながら土木工学的課題を設定し, 土木工学の主要専門知識を活用しつつチームワーク力を発揮して課題解決にあたる	●	
	" 1396	土 木 施 工	2	2-0	3	後	施工計画, 安全管理計画, 工程管理, ネットワーク計算, 品質管理	○	
	" 1490	土 木 行 政	2	2-0	2	前	土木法規, 行政概論	○	
	" 1492	火 薬 学	2	2-0	4	前	火薬の種類, 性質, 取り扱い及び製造, 爆破の概要	○	
	" 1494	土木セミナー	1	0-2	4	前	土木工学に関する外書講読	○	
	" 1496	卒業研究	6	0-6	4	通	土木工学に関する調査・研究	●	
	" 2190	建築基礎情報処理	1	0-2	1	前	琉球大学及び学生生活の基礎情報, パソコン操作, インターネット, ワープロ, 表計算等の操作法	●	
	" 2191	建築学基礎演習	1	0-2	1	前	学問としての建築学, 実務としての建築業, 建築の社会的意味等に関する初歩的な演習	●	
	" 2192	線形代数学 B	2	2-0	1	前	ベクトル, 行列と行列式, 線形写像, 固有値	●	
	" 2194	常微分方程式 B	2	2-0	1	後	常微分方程式, 連立微分方程式, 特殊関数	●	
	" 2196	建築情報処理	2	0-2	1	後	建築に関わる空間と形態をコンピュータ上で処理する上で必要な図法の原理, およびその応用	●	
	" 2290	偏微分方程式 B	2	2-0	2	前	フーリエ級数, フーリエ積分及びフーリエ変換, 偏微分方程式	○	
	" 2292	測 量 学	2	2-0	2	前	距離・平板・トラバース・水準・スタジア測量, 三角測量, 測定値の誤差	○	
	" 2294	測量学実習	1.5	0-3	2	前	平板・トラバース測量	○	
	" 2390	建築生産	2	2-0	3	前	施工計画, 各種建築工事の施工法	●	
	" 2392	建築法規	2	2-0	3	後	建築基準法・同施行令及び都市計画法の概説	△	●
	" 2394	数理情報処理	2	1-1	3	後	各種数値解析手法のプログラミング入門	○	
	" 2396	建築セミナー I	1	0-2	3	後	建築学に関する研究, 調査, 設計等の輪講	○	
	" 2398	建築現業実習 I	2		3	前	官公庁, 設計事務所, コンサルタント, 建設業等の学外現場での現業実習 (10日以上)	○	
	" 2399	建築現業実習 II	1		3	前	官公庁, 設計事務所, コンサルタント, 建設業等の学外現場での現業実習 (5日以上10日未満)	○	
	" 2490	建築技術者倫理	2	2-0	4	前	技術者倫理総論, 建築技術者に求められる倫理観, 事例分析	●	
	" 2492	環境情報システム	2	2-0	4	前	環境及び土木・建築に関する情報の考え方及び情報に関する基礎理論	△	○
	" 2494	建築セミナー II	1	0-2	4	前	建築学に関する外書講読	○	
" 2496	卒業設計又は卒業研究	6	0-6	4	通	建築学の設計研究又は調査・研究	●		
" 3100	確率及び統計	2	2-0	1	後	標本, 事象, 確率, 分布, 平均と分散, 信頼区間, 検定	○	○	

教育分野	科目番号	授業科目名	単位数	週時間	受講年次	学期	授業内容	必修・選択の別	
								土木コース	建築コース
共通	環 1500	特別講義 I	2	2-0	2-4	前又は後	環境建設工学（土木コース）に関する最新の問題又は特定分野に関する講義	○	△
	" 1501	特別講義 III	2	2-0	2-4	前又は後	同上	○	△
	" 1502	特別講義 V	2	2-0	2-4	前又は後	同上	○	△
	" 1503	特別講義 VII	2	2-0	2-4	前又は後	同上	○	△
	" 1504	特別講義 IX	2	2-0	2-4	前又は後	同上	○	△
	" 1505	特別講義 X I	1	1-0	2-4	前又は後	同上	○	△
	" 1506	特別講義 X III	1	1-0	2-4	前又は後	同上	○	△
	" 1507	特別講義 X V	1	1-0	2-4	前又は後	同上	○	△
	" 1508	特別講義 X VII	1	1-0	2-4	前又は後	同上	○	△
	" 1509	特別講義 X IX	1	1-0	2-4	前又は後	同上	○	△
	" 2500	特別講義 II	2	2-0	2-4	前又は後	環境建設工学（建築コース）に関する最新の問題又は特定分野に関する講義	△	○
	" 2501	特別講義 IV	2	2-0	2-4	前又は後	同上	△	○
	" 2502	特別講義 VI	2	2-0	2-4	前又は後	同上	△	○
	" 2503	特別講義 VIII	2	2-0	2-4	前又は後	同上	△	○
	" 2504	特別講義 X	2	2-0	2-4	前又は後	同上	△	○
	" 2505	特別講義 X II	1	1-0	2-4	前又は後	同上	△	○
	" 2506	特別講義 X IV	1	1-0	2-4	前又は後	同上	△	○
	" 2507	特別講義 X VI	1	1-0	2-4	前又は後	同上	△	○
	" 2508	特別講義 X VIII	1	1-0	2-4	前又は後	同上	△	○
	" 2509	特別講義 X X	1	1-0	2-4	前又は後	同上	△	○
	" 2510	フィールドセミナー I	1		2-4	前又は後	建築学の最新の問題又は特定分野に関する演習		○
" 2511	フィールドセミナー II	1		2-4	前又は後	同上		○	
備考	●印は必修科目を示す。○印は選択科目（各々のコースに深く関連する科目）、△印は自由科目（他のコースに関連する科目）であり、いずれも選択履修できるが、6単位を越えて履修した自由科目は卒業要件の単位に含めない。また、一印は工学部共通教員免許・教科科目を示す。								

環境建設工学科土木コースの卒業要件

本学科土木コースの卒業要件を下表に示す。

共通教育			専門基礎教育 (専門基礎)	専門教育(専門科目)							
				必修	選択及び自由科目						
教養領域	健康運動	2単位以上	微分積分学ST I 同 II 物理学 I 同 II 物理学実験	59.5単位	25.5単位						
	人文	2単位以上									
	社会	2単位以上									
総合領域	総合	一般				14 単 位 以 上	59.5単位	25.5単位			
		高学年次									
		琉大特色							2単位以上		
基幹領域	情報関係	2単位以上							9単位以上	85単位以上	
	英語	8単位以上									
	第2外国語	4単位以上									
小計		30単位以上									
合計											

注1) 教養領域、総合領域に関しては、人文・社会・総合・琉大特色から計10単位以上を含む合計14単位を履修すること。
教養領域自然からは卒業認定単位として4単位まで履修可能。

注2) 第2外国語は英語以外の一つの外国語を必ず履修すること。

注3) 情報関係科目は日本語表現法入門(2単位)を必ず履修すること。

注4) 共通教育および専門基礎教育の履修基準を超えて修得した単位を専門科目に含めることはできない。

注5) コンクリート工学実験、水工学実験、土質工学実験Aから1科目以上、設計演習I、設計演習IIから1科目以上必ず履修すること。

注6) 6単位を超えて履修した自由科目は卒業要件の単位に含めない。

注7) 自由科目とは、工学部共通科目および本学科建築コース指定科目(△印)のことである。

注8) 卒業研究を履修するためには、下記の条件を全て満たさなければならない。

- ・ 共通教育、専門基礎教育、専門教育の区別なく、卒業要件を満たすために今後取得しなければならない単位数が、卒業研究を含めて合計19単位以下であること。
- ・ 卒業研究以外の専門必修の未取得科目数が3科目以下であること。
- ・ 注5)に示した実験と設計演習からそれぞれ1科目取得していること。

注9) 土木現業実習IとIIの両方を履修することは出来ない。

注10) 外国人学生にあつては、琉球大学共通教育等履修規程第8条により次の特例を認める。

- (1) 共通教育の人文、社会、自然、総合、琉大特色科目のうち4単位を日本事情に関する科目で読み替えることができる。
- (2) 第2外国語(4単位以上)を日本語科目で読み替えることができる。

教員免許状(工業)の取得について・・398ページ参照